

精神科・児童精神科 専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに



精神科医という仕事を一言で言うのは、大変難しいですが、私が教室の先生方や患者さんにいつも言っていることは、こころの病気も体の病気も同じだということ。こころの病気だけが特別なものだと考える必要はありません。

こころの症状、心理学的な症状が出るだけで、心臓だったら心臓の症状が出るのと同じことで、こころだけを特別ととらえると、どうしてもそこに偏見が生じてしまいます。こころの病気も体の病気も同じだと考えることにより偏見もなくなるし、科学的な進歩を受け入れることができます。このような捉え方をするほうが患者さんも精神科にかかりやすいし、患者さんとの接し方も変わります。頭は体の器官の一部だと考え、特別に考えないことが治療をする上で大切です。皆さんが学生時代に学んだことはほんの入り口の小さな知識でしかありません。医学はものすごく幅が広くて、興味が尽きません。皮膚科と精神科と悩んで皮膚科に行った人は、精神科に来ることはありません。いったん、その世界に入ってしまったら、入ったとたん眩いばかりの興味津々の世界から抜け出せない。それと同じように精神医学も入ると広大な夢のような世界が広がっています。いったんその世界に入ったら、そこから抜け出せない。これが医学の尽きない興味です。それぐらい医学は面白いものです。

これから精神科の患者さんは増えていきます。医療が進む中、新しい病が出てくるのは精神科だけです。文明が進歩して摂食障害が起り、長寿になった結果アルツハイマーや認知症が起り、文明社会になって色々なストレスが強まった結果 PTSD が起こってきました。明らかに、しかも膨大な数で増えるのは精神医学だけです。医療が進み、文明が進み、そのとき精神医学だけは病の数、悩みが増えていきます。

その意味において、人類の未来のさうとう部分が精神医学にかかっています。精神医学は医学を担当しますが、人類の未来を担当するのです。精神医学を専攻する方の未来は明るいのです。

プログラムリーダー 浜松医科大学医学部精神神経科 教授 森 則夫

2 目的

日本は少子高齢化社会を迎え、戦後最大の変革期に直面しています。社会のシステムが目まぐるしく変わり、人々はこころの安寧を失い、おおいに戸惑っています。このような状況を反映してか、精神科を訪れる方が毎年5%の割合で増え続けています。他の診療科の患者数は減少傾向にあることを考えると、精神科の受診者の増加は社会問題とってよいでしょう。浜松医大とその関連病院は、これらの社会情勢にあわせ、精神科医療の機能分化に力を入れています。次にあげるのは、全国から注目されている精神科医療、あるいは、全国のモデルとなっているものです。今後、身体合併症病棟の設置、外来型電気刺激療法の導入などに取り組み、わが国の精神科医療を先導してまいります。そのなかで、精神保健指定医、日本精神神経学会専門医の取得を目指すとともに、質の高い専門医の養成を目指します。

3 目標

精神保健指定医取得を最初の目標とします。並行して日本精神神経学会専門医を取得します。

一般臨床コース：

卒後研修の1年目の精神科臨床研修は、精神医学の診断と治療に関する基礎知識と技法を学ぶことを目的とします。研修先は、**浜松医科大学精神神経科** 指導医 教授 森則夫 他、**静岡県立こころの医療センター** 指導医 院長 村上直人 他、その他の関連病院※1。

2年目以降は、静岡県立こころの医療センターを含む関連病院にて、精神保健指定医取得※2、日本精神神経学会専門医取得※3を前提として、多様な症例を経験するようにします。

各資格取得後の進路については、個人ごとに希望が違うので、個別の相談に応じます。

- ※1 関連病院は静岡県と愛知県に約30施設（専門医取得のための研修施設認定を受けています）。
- ※2 精神保健指定医は精神保健福祉法に定められた国家資格。精神保健指定医の資格がないと、精神保健福祉法のもとでの円滑な入院治療を行うことができません。指定医の資格を得るには3年間の精神科診療歴を含む5年間の臨床経験が必要で、各種精神科疾患についての症例報告が義務づけられています。
- ※3 日本精神神経学会専門医制度では、5年以上の臨床経験を有する者で、研修施設において研修ガイドラインにより精神科臨床研修を3年以上受け、その課程を修了し、専門医認定試験に合格した者を専門医として認定します。

4 特徴

さらなる専門医となるためのコースも併設して用意されています。

児童精神科コース（杉山 登志郎教授）

浜松医科大学は平成22年度より、児童青年期精神医学講座を開設しました。このコースでは、世界で通用する児童精神科医を養成します。研修先は、**国立病院機構天竜病院児童精神科**（病棟、外来）指導医 部長 山村淳一 他、**静岡県立こども病院こどもと家族のこころの診療センター**（病棟、外来）指導医 センター長 山崎透 他、**メンタルクリニック・ダダ**（児童精神科外来、デイケア・ナイトケア）指導医 院長 大嶋正浩 他、**浜松市子どもこころの診療所** 指導医 所長 山崎知克 他などで順次臨床研修を行い、多様な症例を経験するようにします。そして児童精神科専門医、精神保健指定医を取得します。さらに児童精神科の研究に関心がある方は、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所（連合大学院）博士課程（3年間）で研究を行なうことができます。欧米の児童精神科の状況を視察したい方には、ロンドン精神医学研究所、エール大学児童部門、ハーバード大学MGH 児童部門などへの短期留学をお世話します。

大学院コース

大学院にはいつの時点で入学してもかまいません。院生の間も関連病院の常勤医または非常勤医を兼ねるので、経済的な心配はいりません。

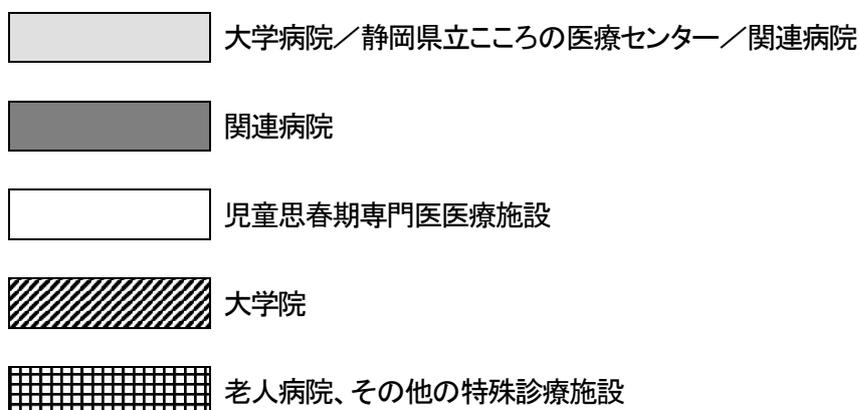
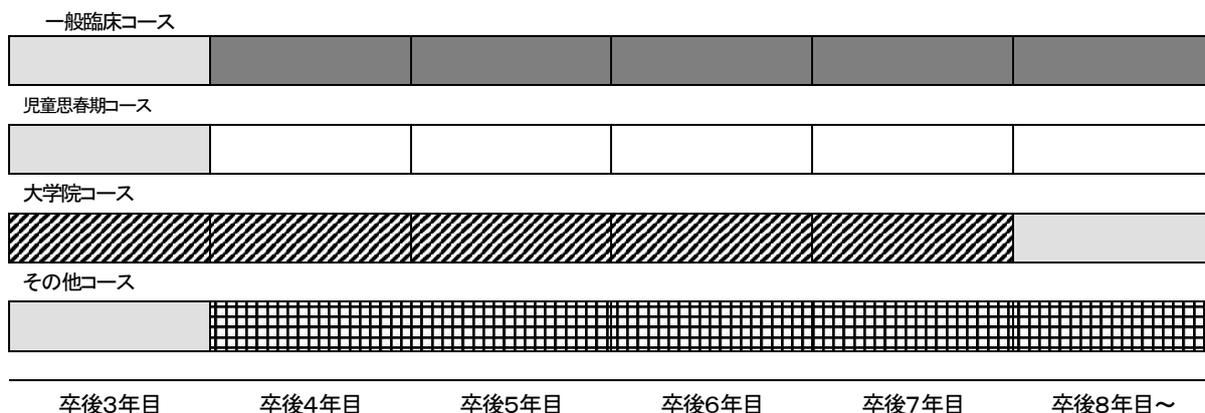
大学院修了後は留学してもよいし、臨床を中心にしてもよいし、研究を中心にしても結構です。

その他の研修コース

老年精神医学を希望する場合には、希望に沿った進路を設定します。その他の分野の研修（たとえば、てんかんの研修や行政職を希望する場合）についても同じです。

5 研修カリキュラム

研修コースの例



6 研修例

(1) 学位と留学、研究

学位は大学院に進んで取得するのが一般的ですが、大学または関連病院に勤めながらでもかまいません。

留学は、原則として、精神保健指定医と学位を取得してからです。留学先は教室が斡旋しています。希望が多いのは、アメリカ、カナダ、ヨーロッパです。

文部科学省、厚生労働省、民間団体からの競争的研究資金、及び、その他の資金の総額は年間2億円弱。主な研究テーマは統合失調症と発達障害(自閉症、ADHD など)。研究手法はPET、MRIなどの脳画像、認知心理学、分子生物学など。臨床研究と基礎研究の両方を行っています。国内外の研究者との交流が活発です。

(2) 研修と診療の特色

森田療法が特色。全国の国立大学法人の中で森田療法を行っている唯一の病院です。森田療法以外の認知行動療法も盛んです。浜松医科大学精神神経科は臨床心理士の育成にも大きな力を注ぎ、毎年、10名弱の臨床心理士の研修を受け入れています。社会復帰事業への参加も積極的です。浜松地区の自助グループやNPO法人(E-JAN)の活動は全国的に有名で、多くの見学者が訪れています。また、難治の摂食障害、気分障害、および強迫性障害の症例が多数あります。臨床心理士、看護師、精神保健福祉士、作業療法士の多職種によるチーム医療の研修ができます。また、総合病院の特色を生かし、他科と連携し修正型電気けいれん療法や難治性統合失調症に対するクロザリルによる治療にも積極的に取り組んでいます。

7 研修病院群（症例実績を含む）

(1) 精神科救急(スーパー救急)体制の整備

静岡県の人口は369万人です。県土は広く、東部、中部、西部に分かれますが、いずれの地域にもスーパー救急病院があります。全部で5病院がスーパー救急の認可を受けています(聖隷三方原病院精神科(浜松市)：指導医 部長 西尾優子 他、清水駿府病院(静岡市)：指導医 院長 水野明典 他、静岡県立こころの医療センター(静岡市)：指導医 院長 村上直人 他、沼津中央病院(沼津市) 指導医 院長 杉山直也 他、鷹岡病院(富士市) 指導医 院長 高木啓 他)です。詳しくは、それぞれの病院のHPをご覧ください。このような強固なスーパー救急体制を持つ地域は他になく(スーパー救急施設を持たない地域がまだ多くあります)、静岡県は全国のスーパー救急医療体制のモデルとなっています。

(2) 社会復帰支援体制の整備

急性期の治療は社会復帰のための治療プログラムとセットでなければなりません。静岡県では、県主導の社会復帰事業に加え、市民レベルの支援が行われていることが大きな特色です。NPO法人E-JAN(浜松市)はその代表的な例です。E-JANには、精神科医、臨床心理士、精神保健福祉士が参加し、市民とともに、障害者を支える活動に取り組んでいます。約10年前に組織され、今や、わが国を代表する支援団体に育ちました。

(3) 発達障害への革新的取り組み

浜松医大には「子どものこころの発達研究センター」(センター長 森則夫)があり、国立病院機構天竜病院児童精神科(浜松市)、静岡県立こども病院こどもと家族のこころの診療センター(静岡市)、静岡県立こども家庭相談センター(静岡市)、浜松市発達医療総合福祉センター(浜松市)、あいち小児保健医療総合センター心療科(愛知県大府市)と共に、主に発達障害の臨床と研究を行ってきました。平成21年度には、連合大学院が設置され、発達障害に関する教育・研究事業を展開しています。浜松医大を中心とするチームは、わが国における発達障害の臨床・教育・研究において、文字通りの中核基地として機能しています。

(4) 物質依存治療体制の充実

覚醒剤やアルコールなどに対する依存は重大な社会問題となっています。その治療や支援には、特別の配慮と工夫が必要です。聖明病院(富士市) 指導医 院長 近藤直樹 他、服部病院(磐田市) 指導医 院長 山名純一 他は物質依存に特化した精神科単科病院で、その診療圏は静岡県に留まらず、山梨県、神奈川県、愛知県に及んでいます。また、絃仁病院(名古屋市) 指導医 院長 内藤明久 他は物質依存治療病棟を有し、愛知県内唯一の物質依存専門施設として機能しています。

8 研修期間

プログラムの内容に応じ2年以上。

9 プログラム参加の要件

初期臨床研修を終えていること。

10 処遇

身分は原則常勤。給与は各病院の給与体系に従うものとします。また、女性医師が出産・育児をしながら早期に職場復帰できるよう、当直免除やパート勤務など、関連病院との間で調整を行っています。

11 プログラム終了後の進路

関連病院については浜松医科大学精神神経科のホームページ <http://hmup.jpn.org/> を参照してください。静岡県内の精神科医数は、世代交代を考慮すると、少なくとも 100 名は不足しています。

浜松医科大学精神神経科の基本方針は、まず、静岡県内の精神科医療の充実と向上にあり、静岡県内のほとんどの精神科病院が浜松医科大学精神神経科と関係があります。東海地区で精神科医療を志す研修医は、まず浜松医科大学精神神経科で臨床研修を行い、精神医学と障害者への考え方や姿勢を共有して精神科医療へ貢献してくれることを強く願っています。

浜松医科大学精神神経科の研究は、少なくとも国内の大学精神科の中では最高水準にあるので、研究者、教育者としての道を進みたい方の要望にも十分応えられると思います。

12 プログラム運営委員会

○プログラムの管理

〒431-3192 浜松市東区半田山一丁目 20-1

浜松医科大学精神医学講座 鈴木勝昭（研修担当）

電話：053-435-2295

FAX：053-435-3621

Eメール：k-suzuki@hama-med.ac.jp